

統 計

昭和42年を中心とした全国人口の再生産に関する主要指標

わが国全国についての人口再生産力に関する主要指標、すなわち、標準化人口動態率（標準人口：昭和5年全国）、女子の人口再生産率、ならびに女子の安定人口諸指標の算定は、資料課において毎年行なわれており、すでに、昭和41年以前の結果数値は『人口問題研究』あるいは「研究資料」に発表してきている¹⁾。

今回、これら指標の昭和42年についての算定を終えたので、ここにその結果を発表するが、時系列的比較の便宜のために、大正14年以降算定各年次の主要算定数字について摘要表を作成、掲載した(第1～3表)。最新の昭和42年については、単に算定の最終結果だけでなく、計算の基礎となった数字ならびに計算過程の主要な数字、たとえば年齢別の人口、出生・死亡数、出生・死亡率、生残数なども掲載しておいた(第4表以降)。

掲載した諸指標については、それ自体の概念および算定方法についての専門的説明を必要とするが、ここには、限られた紙面で詳細を記しえないので省略した。それらについては、注記の各資料を参照していただきたい。

昭和42年の算定結果について

昭和42年の算定結果について、まず標準化人口動態率をみると、42年の出生率(16.22‰)は前年の11.73‰より4.49‰(増加率にして38.3%)もの上昇を示した。これは普通出生率の場合でも同じような動きであるが、出生率では標準化率の方が若干増加が小さく(普通率の増加率は40.5%)、この1年間における人口構造の変化が見かけの出生率をそれだけ引き上げる方向に働いたことを意味する。いずれにしても、昭和41年から42年にかけての出生率の上昇は4割前後という驚異的なもので、これは一にいわゆる「ひのえうま」の影響によってもたらされたものと言える。また、標準年である昭和5年の出生率32.35‰と比べてみると、標準化率はその5割(50.1)、普通率は6割弱(59.7)となる。ちなみに、42年の出生率は昭和30～31年の水準に戻ったことになる。

死亡率の方では標準化、普通率ともに前年に比べてさらに低下で、その低下の度合いは標準化率の方が強く、5.55‰から5.42‰へと2.3%の低下率を示したのに対し、普通率ではわずかに0.6%低下したにとどまっている。これは、人口構造の変動要因を除外すれば、死亡率そのものは見かけ以上に低下しているということになる。なお、昭和42年の死亡率は両者ともに従来の最低となっている。最低になった42年の死亡率を標準年のそれと対比すると、標準化率は遂に昭和5年の18.17‰の3割を割り(29.8)、普通率でも37.0となり、著しい死亡改善の状態を示している。

自然増加率は、出生率・死亡率の動きを反映して標準化・普通いずれの率も格段に上昇した。10.80‰という標準化自然増加率の地位は、昭和27年と28年の中間にあり、近年にない高率であり、普通自然増加率12.58‰もまた、昭和28年の水準である。

その他の人口再生産率、安定人口動態率といった指標も、標準化人口動態率とほぼ似かよった傾向を示し、

1) 発表資料については、山口喜一「昭和40年を中心とした人口再生産力に関する主要指標」『人口問題研究』第104号、昭和42年10月の62ページを参照されたい。それ以後の資料には次のものがある。

厚生省人口問題研究所(山口喜一・金子武治・矢島昭子担当)『全国人口の再生産に関する指標 昭和35～40年』(研究資料第178号)、昭和42年10月。

山口喜一・金子武治「昭和41年を中心とした全国人口の再生産に関する主要指標」『人口問題研究』第108号、昭和43年10月。

純再生産率も12年ぶりに拡大再生産となっているが、死亡率の低下はともかく、出生力の上昇は、やはり昭和41年の「ひのえうま」の産みびかえの影響歴然たりと言えよう。それはそれとして動態事実として現われた結果ではあるが、少なくとも41年をはさむ3年次くらいは「ひのえうま」による異常な年（あるいは昭和43年以降の出生にまで残る可能性もあるし、39年の出生が全くこの迷信の事前考慮を含んでいないとも言いきれないが）であることは疑いの余地がなく、出生の正常な動向を観察する場合には取り扱い上注意を要しよう。

そこで、ここに出生力の平年的な動向に近い値をみるために、昭和40～42年の年平均値を算出し、参考に供しておく。

〔参考〕 昭和40～42年平均出生力・再生産力指標

女子の年齢別特殊出生率	普通出生率	17.21‰
15～19歳 3.72‰	普通死亡率	6.87‰
20～24歳 104.08‰	普通自然増加率	10.34‰
25～29歳 188.30‰	標準化出生率	14.55‰
30～34歳 79.90‰	標準化死亡率	5.64‰
35～39歳 18.42‰	標準化自然増加率	8.91‰
40～44歳 2.81‰	粗再生産率	1.987
45～49歳 0.16‰	総再生産率	0.965
総出生率 60.16‰	純再生産率	0.935

昭和40～42年の年平均出生率は、標準化出生率が14.55‰となり、これは昭和38年よりも高く、39年よりも低いところに位置し、この3か年平均値でみるかぎり、それ以前の傾向を伸ばしてみて横ばいと言えよう。また、普通出生率(17.21‰)は昭和37年よりも高く、38年よりもやや低いところに当たる。粗再生産率では、平均値1.99は38年と同等で39年よりも低く、総再生産率(0.97)、純再生産率(0.93)ともほぼ同じ傾向で、やはり縮小再生産を示す。なお、純再生産率を総再生産率で割った再生産残存率(3か年平均では97%)は、死亡の改善によって39年以前よりも若干高まっている²⁾。(山口喜一・金子武治)

2) 昭和40～42年平均値をもって、最近の諸外国の同様指標と国際比較を行なった結果を次に示しておいた。あわせ参照されたい。

山口喜一「最近におけるわが国の出生状況——参考としての国際比較」『人口問題研究所年報』第14号(昭和44年度)、昭和44年10月。

Indices of Population Reproductivity for All Japan: 1967

The results of the calculations of the standardized vital rates (1930 census population as the standard population), population reproduction rates for females and several indices of the stable population until 1966 have already been completed and reported by the author in Nos. 94, 96, 104 and 108 of *The Journal of Population Problems* and other publications. In this number, the completed result of the above for 1967 are to be reported.

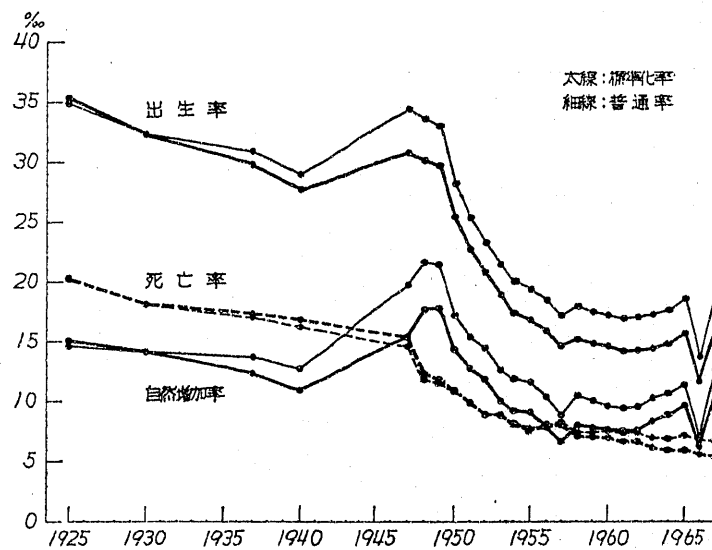
(K. YAMAGUCHI and T. KANEKO)

第1表 年次別標準化人口動態率：大正14年～昭和42年（付 普通人口動態率）
Table 1. Standardized and Crude Vital Rates: 1925~1967

年次 Year	標準化人口動態率 (‰)			昭和5年を基準とした指数 Index of stand. v. r. (1930=100)			〔参考〕 普通人口動態率 (‰)		
	出生率 Birth rate	死亡率 Death rate	自然増加率 Natural inc. rate	出生率 Birth rate	死亡率 Death rate	自然増加率 Natural inc. rate	出生率 Birth rate	死亡率 Death rate	自然増加率 Natural inc. rate
大正 14 1925	35.27	20.24	15.03	109.0	111.4	106.0	34.92	20.27	14.65
昭和 5 1930	32.35	18.17	14.18	100.0	100.0	100.0	32.35	18.17	14.18
12 1937	29.77	17.35	12.42	92.0	95.5	87.6	30.88	17.10	13.78
15 1940	27.74	16.80	10.94	85.7	92.5	77.2	28.95	16.24	12.71
22 1947	30.69	15.32	15.37	94.9	84.3	108.4	34.30	14.57	19.73
23 1948	30.03	12.31	17.72	92.8	67.7	125.0	33.52	11.88	21.64
24 1949	29.66	11.88	17.78	91.7	65.4	125.4	32.98	11.56	21.42
25 1950	25.33	10.97	14.36	78.3	60.4	101.3	28.10	10.88	17.22
26 1951	22.63	9.88	12.75	70.0	54.4	89.9	25.29	9.92	15.37
27 1952	20.75	8.86	11.89	64.1	48.8	83.9	23.37	8.92	14.45
28 1953	18.86	8.85	10.01	58.3	48.7	70.6	21.48	8.88	12.60
29 1954	17.44	8.16	9.28	53.9	44.9	65.4	20.05	8.18	11.87
30 1955	16.79	7.67	9.12	51.9	42.2	64.3	19.39	7.77	11.62
31 1956	15.83	7.36	7.97	48.9	43.3	56.2	18.47	8.03	10.44
32 1957	14.61	8.01	6.60	45.2	44.1	46.5	17.23	8.28	8.95
33 1958	15.19	7.14	8.05	47.0	39.3	56.8	18.02	7.46	10.56
34 1959	14.82	7.02	7.80	45.8	38.6	55.0	17.55	7.45	10.10
35 1960	14.62	6.99	7.63	45.2	38.5	53.8	17.19	7.56	9.63
36 1961	14.24	6.71	7.53	44.0	36.9	53.1	16.86	7.38	9.48
37 1962	14.26	6.64	7.62	44.1	36.5	53.7	17.01	7.46	9.55
38 1963	14.45	6.10	8.35	44.7	33.6	58.9	17.26	6.98	10.28
39 1964	14.80	5.91	8.89	45.7	32.5	62.7	17.66	6.93	10.73
40 1965	15.65	5.97	9.68	48.4	32.9	68.3	18.56	7.13	11.43
41 1966	11.73	5.55	6.18	36.3	30.5	43.6	13.74	6.77	6.97
42 1967	16.22	5.42	10.80	50.1	29.8	76.2	19.31	6.73	12.58

昭和5年全国人口を標準人口に採り、Newsholme-Stevensonの任意標準人口標準化法の直接法による。国勢調査人口およびそれに基づく推計人口、人口動態統計による出生・死亡数によって算出。昭和15年以前は旧沖縄県を含んでいる。標準化についての詳細は、「人口問題研究所研究資料」の第155号を参照。

〔参考図〕 標準化および普通人口動態率の推移：1925～67年

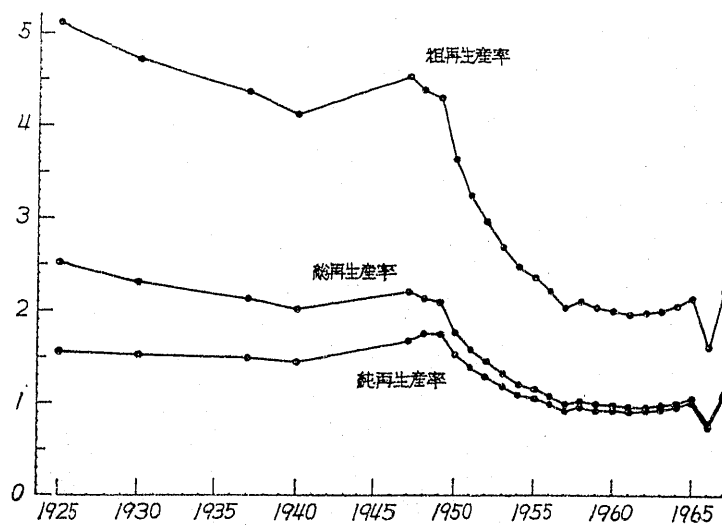


第2表 年次別女子の人口再生産率：大正14年～昭和42年
Table 2. Reproduction Rates for Female: 1925~1967

年次 Year	粗再生産率	総再生産率	純再生産率	再生産	静止粗再	(1)-(5)	昭和5年を基準とした指数 Index of rep. rates (1930=100)		
	Total fertility rate (1)	Gross reproduction rate (2)	Net reproduction rate (3)	残存率 (3)/(2) (4)	生産率 (1)/(3) (5)		粗再生産率 Total fertility (6)	総再生産率 Gross rep. rate	純再生産率 Net rep. rate
大正14 1925	5.11	2.51	1.56	0.62	3.28	1.83	108.5	109.1	102.6
昭和 5 1930	4.71	2.30	1.52	0.66	3.10	1.61	100.0	100.0	100.0
12 1937	4.36	2.13	1.49	0.70	2.93	1.43	92.6	92.6	98.0
15 1940	4.11	2.01	1.44	0.72	2.85	1.26	87.3	87.4	94.7
22 1947	4.52	2.20	1.67	0.76	2.71	1.81	96.0	95.7	109.9
23 1948	4.37	2.13	1.75	0.82	2.50	1.87	92.8	92.6	115.1
24 1949	4.29	2.09	1.74	0.83	2.47	1.82	91.1	90.9	114.5
25 1950	3.63	1.76	1.53	0.87	2.37	1.26	77.1	76.5	100.7
26 1951	3.24	1.58	1.38	0.87	2.35	0.89	68.8	68.7	90.8
27 1952	2.96	1.45	1.28	0.88	2.31	0.65	62.8	63.0	84.2
28 1953	2.68	1.31	1.17	0.89	2.29	0.39	56.9	57.0	77.0
29 1954	2.47	1.20	1.09	0.91	2.27	0.20	52.4	52.2	71.7
30 1955	2.36	1.15	1.05	0.91	2.25	0.11	50.1	50.0	69.1
31 1956	2.21	1.07	0.99	0.93	2.23	-0.02	46.9	46.5	65.1
32 1957	2.03	0.99	0.91	0.92	2.23	-0.20	43.1	43.0	59.9
33 1958	2.10	1.02	0.96	0.94	2.19	-0.09	44.6	44.3	63.2
34 1959	2.03	0.99	0.92	0.93	2.21	-0.18	43.1	43.0	60.5
35 1960	1.99	0.97	0.92	0.95	2.16	-0.17	42.3	42.2	60.5
36 1961	1.95	0.95	0.90	0.95	2.17	-0.22	41.4	41.3	59.2
37 1962	1.97	0.95	0.91	0.96	2.16	-0.19	41.8	41.3	59.9
38 1963	1.99	0.97	0.93	0.96	2.14	-0.15	42.3	42.2	61.2
39 1964	2.04	0.99	0.95	0.96	2.15	-0.11	43.3	43.0	62.5
40 1965	2.13	1.04	1.00	0.96	2.13	0.00	45.2	45.2	65.8
41 1966	1.60	0.77	0.74	0.97	2.14	-0.54	34.0	33.5	48.7
42 1967	2.22	1.08	1.05	0.97	2.11	0.11	47.1	47.0	69.1

国勢調査人口およびそれに基づく推計人口，人口動態統計による出生数ならびに生命表の生残数(L(x))によって算出。昭和15年以前は旧沖繩県を含む。なお昭和41年以降は5歳階級，40年以前は各歳別の数値によって算定。人口再生産率についての詳細は，「人口問題研究所研究資料」の第157号を参照。

〔参考図〕 女子人口再生産率の推移：1925～67年



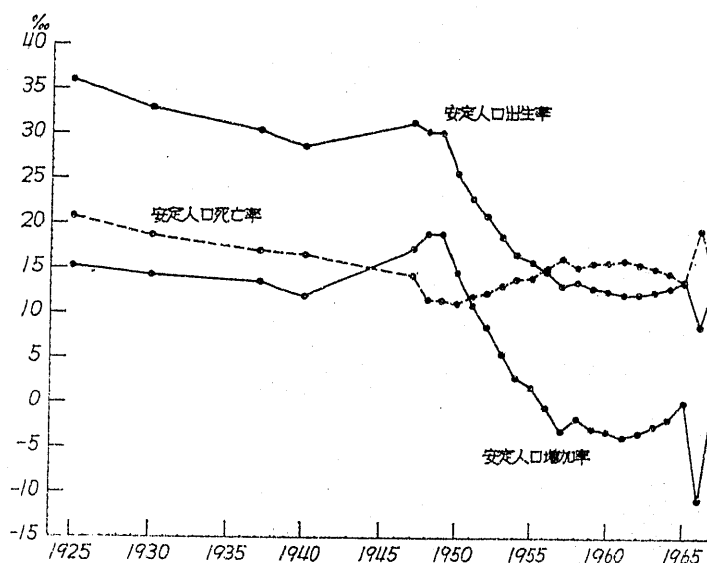
第3表 年次別女子の安定人口動態率および年齢構造係数：大正14年～昭和42年
(付 女子の実際人口年齢構造係数)

Table 3. Intrinsic Vital Rates and Age Composition of Stable and Actual Populations for Female: 1925~1967

年次 Year	安定人口動態率 (‰) Intrinsic vital rates (%)			安定人口年齢構造係数 Age composition of stable population (%)			〔参考〕 実際人口年齢構造係数 Age composition of actual population (%)		
	増加率 Increase rate	出生率 Birth rate	死亡率 Death rate	0~14	15~64	65≦	0~14	15~64	65≦
大正14 1925	15.19	35.95	20.76	37.57	57.77	4.66	36.54	57.73	5.73
昭和 5 1930	14.19	32.87	18.68	35.79	58.83	5.38	36.45	58.11	5.44
12 1937	13.40	30.37	16.97	34.57	59.49	5.94	36.48	58.14	5.38
15 1940	11.99	28.60	16.61	33.59	60.36	6.05	35.71	58.84	5.45
22 1947	17.14	31.30	14.16	35.92	58.69	5.39	34.10	60.46	5.44
23 1948	18.83	30.31	11.48	36.08	58.15	5.77	34.16	60.39	5.45
24 1949	18.77	30.15	11.38	35.80	58.48	5.72	34.29	60.20	5.51
25 1950	14.56	25.62	11.06	31.90	60.71	7.39	34.17	60.21	5.62
26 1951	10.96	22.92	11.96	29.28	61.97	8.75	33.89	60.50	5.61
27 1952	8.56	20.80	12.24	27.31	63.06	9.63	33.47	60.85	5.68
28 1953	5.48	18.52	13.04	24.94	63.68	11.38	33.02	61.22	5.76
29 1954	2.90	16.65	13.75	23.04	64.04	12.92	32.68	61.44	5.88
30 1955	1.72	15.72	14.00	22.08	64.10	13.82	32.19	61.82	5.99
31 1956	- 0.42	14.67	15.09	20.93	65.07	14.00	31.42	62.55	6.03
32 1957	- 3.14	13.02	16.16	19.05	64.85	16.10	30.59	63.33	6.08
33 1958	- 1.63	13.51	15.14	19.66	64.31	16.03	29.85	63.99	6.16
34 1959	- 2.80	12.89	15.69	18.95	64.47	16.58	29.10	64.64	6.26
35 1960	- 3.18	12.59	15.77	18.64	64.45	16.91	28.88	64.75	6.37
36 1961	- 3.74	12.23	15.97	18.27	64.65	17.08	28.62	64.91	6.48
37 1962	- 3.33	12.24	15.57	18.27	64.14	17.59	27.54	65.89	6.57
38 1963	- 2.54	12.49	15.03	18.62	63.96	17.42	26.40	66.89	6.71
39 1964	- 1.70	12.92	14.62	19.17	64.14	16.69	25.29	67.87	6.84
40 1965	0.11	13.70	13.59	20.11	63.73	16.16	24.69	68.40	6.92
41 1966	- 10.66	8.73	19.39	13.92	62.92	23.16	23.85	69.03	7.11
42 1967	1.77	14.51	12.75	21.09	63.61	15.30	23.46	69.24	7.30

国勢調査人口およびそれに基づく推計人口、人口動態統計による出生数ならびに生命表の生残数(L(x))によって算出。昭和15年以前は旧沖縄県を含む。なお昭和41年以降は5歳階級、40年以前は各歳別の数値によって算定。安定人口についての詳細は、「人口問題研究所研究資料」の第161号を参照。

〔参考図〕 女子の安定人口動態率の推移：1925～67年



第4表 女子の年齢（5歳階級）別人口，出生数，特殊出生率および生残数ならびに人口再生産率：昭和42年

Table 4. Population, Number of Births and Specific Fertility Rates by 5-Year Age Groups, and Reproduction Rates for Female: 1967

年齢階級 x	女子人口 $P_F(x)$	出生数			特殊出生率		生残数 (静止人口) $L_F(x)$	$\frac{Ff_F(x) \times L_F(x)}{100,000}$
		総数 $B_S(x)$	男 $B_M(x)$	女 $B_F(x)$	$\frac{B_S(x)/P_F(x)}{f_F(x)}$	$\frac{B_F(x)/P_F(x)}{Ff_F(x)}$		
15 ~ 19	5,467,000	23,599	12,119	11,480	0.00432	0.00210	97,813	0.00205
20 ~ 24	4,520,000	491,085	251,244	239,841	0.10865	0.05306	97,542	0.05176
25 ~ 29	4,371,000	948,860	486,919	461,941	0.21708	0.10568	97,136	0.10265
30 ~ 34	4,210,000	384,320	197,451	186,869	0.09129	0.04439	96,627	0.04289
35 ~ 39	3,899,000	77,873	39,942	37,931	0.01997	0.00973	95,994	0.00934
40 ~ 44	3,460,000	9,489	4,883	4,606	0.00274	0.00133	95,122	0.00127
45 ~ 49	2,850,000	421	220	201	0.00015	0.00007	93,839	0.00007
Σ	28,777,000	1,935,647	992,778	942,869	0.44420	0.21636	—	0.21003
$5 \times \Sigma$	—	—	—	—	2.22100	1.08180	—	1.05015

本表の数値は，前掲第1～3表の各指標の昭和42年分算定に用いたものである。

女子人口は，総理府統計局の推計による昭和42年10月1日現在人口。出生数は，厚生省大臣官房統計調査部の昭和42年人口動態統計。生残数は，人口問題研究所の第21回簡速静止人口表(昭和42年4月～43年3月)による $L(x)$ ，ただし， $L(0)=10$ 万なので $L(x)/100,000$ を採っている。なお，本表の出生数は母の年齢が15歳未満，50歳以上および不詳の出生数(総数25，男11，女14)につき，15～49歳の既知の年齢別数値の割合に応じて案分補正したものである。

$f_F(x)$ の 5Σ は粗再生産率， $Ff_F(x)$ の 5Σ は総再生産率， $Ff_F(x) \cdot L_F(x)$ の 5Σ は純再生産率である。

第5表 男女，年齢（5歳階級）別人口，死亡数および特殊死亡率：昭和42年

Table 5. Population, Number of Deaths, and Specific Mortality Rates by 5-Year Age Groups and Sexes: 1967

年齢階級 x	総数 Both sexes			男 Male			女 Female		
	人口 $P_S(x)$	死亡数 $D_S(x)$	特殊死亡率 $m_S(x)$	人口 $P_M(x)$	死亡数 $D_M(x)$	特殊死亡率 $m_M(x)$	人口 $P_F(x)$	死亡数 $D_F(x)$	特殊死亡率 $m_F(x)$
総数 Total	100,243,000	675,006	0.00673	49,219,000	366,076	0.00744	51,024,000	308,930	0.00605
0 ~ 4	8,263,000	36,388	0.00440	4,226,000	20,886	0.00494	4,037,000	15,502	0.00384
5 ~ 9	7,836,000	3,905	0.00050	3,991,000	2,453	0.00061	3,845,000	1,452	0.00038
10 ~ 14	8,317,000	3,163	0.00038	4,231,000	1,979	0.00047	4,086,000	1,184	0.00029
15 ~ 19	11,073,000	7,681	0.00069	5,606,000	5,244	0.00094	5,467,000	2,437	0.00045
20 ~ 24	9,016,000	9,499	0.00105	4,496,000	6,257	0.00139	4,520,000	3,242	0.00072
25 ~ 29	8,661,000	10,818	0.00125	4,290,000	6,728	0.00157	4,371,000	4,090	0.00094
30 ~ 34	8,419,000	12,477	0.00148	4,209,000	7,737	0.00184	4,210,000	4,740	0.00113
35 ~ 39	7,835,000	15,967	0.00204	3,937,000	9,972	0.00253	3,899,000	5,995	0.00154
40 ~ 44	6,656,000	18,444	0.00277	3,196,000	10,993	0.00344	3,460,000	7,451	0.00215
45 ~ 49	5,117,000	21,134	0.00413	2,266,000	11,744	0.00518	2,850,000	9,390	0.00329
50 ~ 54	4,723,000	30,734	0.00651	2,177,000	17,845	0.00820	2,546,000	12,889	0.00506
55 ~ 59	4,246,000	45,315	0.01067	2,003,000	27,621	0.01379	2,243,000	17,694	0.00789
60 ~ 64	3,416,000	59,997	0.01756	1,649,000	37,322	0.02263	1,766,000	22,675	0.01284
65 ~ 69	2,781,000	80,399	0.02891	1,319,000	48,865	0.03705	1,462,000	31,534	0.02157
70 ~ 74	1,892,000	91,784	0.04851	857,000	51,820	0.06047	1,036,000	39,964	0.03858
75 ~ 79	1,164,000	94,432	0.08113	484,000	47,661	0.09847	680,000	46,771	0.06878
80 ≦	829,000	132,869	0.16028	282,000	50,949	0.18067	547,000	81,920	0.14976

本表の数値は，前掲第1表の標準化死亡率の昭和42年分算定に用いたものである。

人口は，総理府統計局の推計による昭和42年10月1日現在人口。死亡数は，厚生省大臣官房統計調査部の昭和42年人口動態統計による。なお本表の死亡数は，年齢不詳(総数35，男24，女11)分を既知の男女，年齢別数値の割合に応じて案分補正したものである。

第6表 女子の安定人口増加率、出生率および死亡率ならびに平均世代間隔：昭和42年
(付 計算過程の主要指標)

Table 6. Intrinsic Vital Rates and Average Length of Generation of Stable Population for Female: 1967

指 標 Items	算 定 数 値 Results	指 標 Items	算 定 数 値 Results
安定人口増加率 (Intrinsic increase rate) $r = \frac{1}{\beta} (-\alpha + \sqrt{\alpha^2 + 2\beta \log_e R_0})$	0.001765	$L_0 = \sum_{x=0}^{\omega} L_F(x)$	73.71505
安定人口出生率 (Intrinsic birth rate) $b = \frac{1}{L_0} e^{\int A' dr}$	0.014513	$L_1 = \sum_{x=0}^{\omega} (x+0.5)L_F(x)$	2,853.741375
安定人口死亡率 (Intrinsic death rate) $d = b - r$	0.012748	$L_2 = \sum_{x=0}^{\omega} (x+0.5)^2 L_F(x)$	150,213.746563
$R_0 = \sum_{x=15}^{49} L_F(x) F f_F(x)$... 純再生産率	1.05015	$L_3 = \sum_{x=0}^{\omega} (x+0.5)^3 L_F(x)$	9,034,896.714844
$R_1 = \sum_{x=15}^{49} (x+0.5)L_F(x) F f_F(x)$	29.124125	$u = \frac{L_1}{L_0}$... 静止人口平均年齢	38.713144
$R_2 = \sum_{x=15}^{49} (x+0.5)^2 L_F(x) F f_F(x)$	826.7459375	$v = u^2 - \frac{L_2}{L_0}$	— 539.054738
$\alpha = \frac{R_1}{R_0}$... 静止人口平均世代間隔	27.733300	$w = u^3 - \frac{2}{3} \cdot u \cdot \frac{L_2}{L_0} + \frac{1}{2} \cdot \frac{L_3}{L_0}$	969.983237
$\beta = \alpha^2 - \frac{R_2}{R_0}$	— 18.128688	$\int A' dr = ur + \frac{1}{2} vr^2 + \frac{1}{3} wr^3$	0.067510
		安定人口平均世代間隔 (Average length of generation of stable population)	27.717298
		$\bar{T} = \alpha + \frac{1}{2} \beta r$	

各指標の性質等については、「人口問題研究所研究資料」第161号を参照。

第7表 女子の安定人口年齢（5歳階級・3大区分別）構造係数：昭和42年

Table 7. Age Composition of Stable Population for Female: 1967

年 齢 x	構造係数 $C_F(x)$	年 齢 x	構造係数 $C_F(x)$	年 齢 x	構造係数 $C_F(x)$	年 齢 x	構造係数 $C_F(x)$	年 齢 x	構造係数 $C_F(x)$
0~4	0.071113	25~29	0.067147	50~54	0.060791	75~79	0.032069	0~14	0.210927
5~9	0.070266	30~34	0.066208	55~59	0.058345	80~84	0.019415	15~64	0.636128
10~14	0.069543	35~39	0.065196	60~64	0.054942	85~89	0.007726	65≤	0.152945
15~19	0.068819	40~44	0.054036	65~69	0.049914	90~94	0.001316		
20~24	0.068026	45~49	0.062618	70~74	0.042473	95~99	0.000032	Σ	1.000000

計算方法その他詳細については、「人口問題研究所研究資料」第161号を参照。